(3) 川本来の自然的な環境を保全復元し
生き物と人とがともに豊かに関われる川づくりを工夫する

●堤防の防護や低水河岸の整備に当たっては、河岸や水際部をできるだけ自然に近い形にする。

(4) 堰や床止め、魚道の改善を図り、魚が移動できる環境をつくる

●アユだけでなく他の魚類や水生生物、鳥類についても調査し、魚道や遡上した先の河川環境の有効性や問題点について調査をする。

●改善が必要と思われる魚道:小田井床止、上条神明堰、玉野堰
＊アユと鳥類(カワウ、サギ類)の問題は立場によって様々なとらえ方がある。共有点を見いだすため何らかの取り組みが必要。

小田井床止

上条神明堰

玉野堰

(5) 行政、企業、市民レベルの水質改善、特に水質が悪い場所の対策を進める

●八田川合流点の水質が極度に悪い。浄化施設を設置するなど重点的な対策が必要。

●高水敷を利用した小水路による実験的水質浄化の検討(実験方法の検討、市民の受け皿づくり)

●下水処理水や企業排水の浄化対策、汚水と雨水の分流かが必要。

●上流部に魚が少ない、夏場にPH値が上昇するという指摘がある。なぜ魚がいないのか、魚が棲みにくい要素やPHが上昇する原因を解明し、改善してゆくための調査や実験が必要。

八田川合流点の汚濁水

(6) 河川整備への住民参加、合意のシステム

●住民は、地区の歴史や自然資源を元に「生態系から見たデザインの手引き」を作成する。

●行政は、案の策定前の段階から住民と話し合い、工事段階でも参加の機会を設ける。

●工事後の評価や改善を協働で行う。

提案4 ゴミのないきれいな川づくりを進める

【趣旨】

河口部の川岸やヨシ原には、多くのゴミが堆積している。上流から流れ着いたものが多く、流域全体の問題として取り組む必要がある。また、ゴミに対する行政の対応は、各自治体によってシステムが異なるため、流域全体で取り組むことを困難にしている。

【考えられる方策】

●河口部で行われている清掃活動を軸に活動を広げ、流域全体で「ごみ収集大作戦」を展開しゴミの種類などをマップ化、情報交換を行う。

●河口部については、上流の学校や地域団体に河口部に足を運んでもらい、自然観察などを通してゴミ問題についても考える機会を作る。

●アドプト事業を広める

【改善課題】

●河口部は堤防道路の交通量が多く、水辺にアクセスしにくい堤防構造になっており、ゴミ収集活動が思うようにできない。近づきやすい構造に改善する。

●回収したゴミ処理が機能的に展開できるシステム(自治体の協力体制)が必要

稲永公園前のヨシ原にたまったゴミ。河口部にはたくさんのゴミがたどり着く。

2-3 豊かな川体験を伝え、川を憩いの場とするために [体験・憩いの場グループからの提案]

提案1 「川沿いにずっと歩ける道」を確保したい

【機能】

●長い距離を歩けるウォーキングルート(広々として自然を感じられる健康の道)

●流域の歴史や文化を体験するポイントをつなぐ道づくり。(提案2の「散歩道(トレイル)」のルートとしても考えていく)

●防災のための道

新土岐川橋付近(土岐市)

【課題】

●車の入らない道が川沿いに確保されているところは、少ない。

●川沿いに木陰がない(日差しを避けほっと一息つける場所がない)

【整備の方針提案】

●できる限り、堤防上あるいは川側(高水敷)に歩ける道(車の入れない道)を確保する。

●下流区間の堤防道路は一方通行にし、川表側に歩行空間を確保したい

●歩く道沿いの要所に木陰を確保する。可能な場所では堤防に盛土をして並木を植え、育てたい。
現状の課題／歩道を整備しても、殺風景で、歩いていても木陰がない。(例／多治見)

●ポイントに看板の設置。(化石、酒屋、染色屋、漁業、用水)

●見晴しのいいところ、木陰等にベンチを設置する。